

ビジネス自動化のための5つのステップ

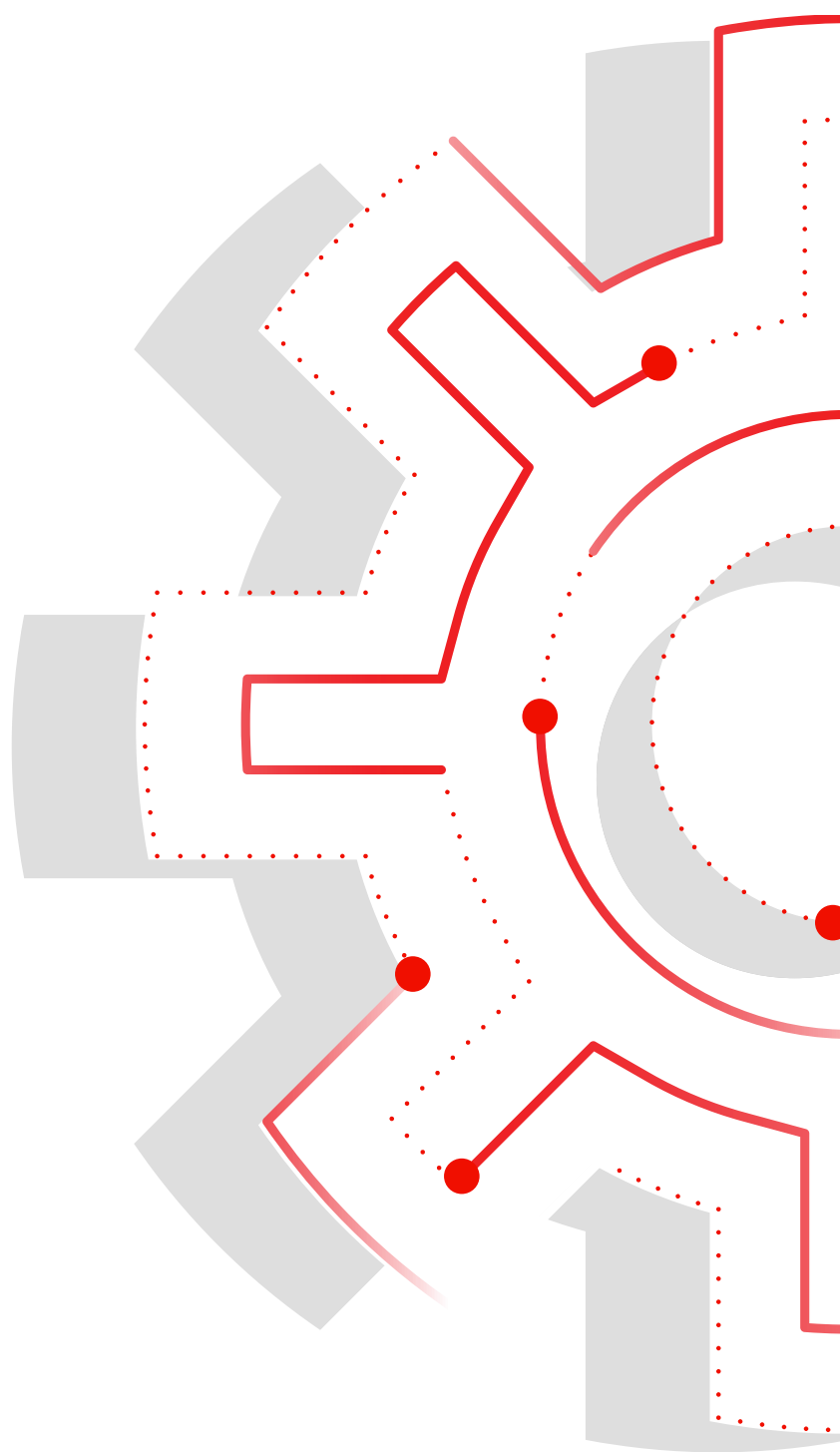
Red Hat サービスで組織全体での
自動化を加速



Red Hat

目次

はじめに	3
自動化の導入プロセスを始める	4
ステップ 1	
すぐに自動化を適用できる対象を捉える	6
ステップ 2	
成果を生む基盤を構築する	8
ステップ 3	
初回の成功を拡大する	10
ステップ 4	
自動化導入を加速する	12
ステップ 5	
自動化重視のエンタープライズを最適化して成長させる	14
Red Hat サービスの利用を始める	15
今すぐ始めましょう	16



はじめに

多くの企業が利益を最適化する方法を見いだそうと模索するなか、自動化は高い関心を集め続けていますが、すべての自動化戦略が同じように作成されているわけではありません。

さまざまな業界の企業が多様な手法、理念、戦略で自動化を取り入れています。一部の組織ではコミュニティ版の自動化ソリューションを試していますが、特定のタスクには対処できても長期的には拡張性や持続性に欠けます。それに対して、適切なエンタープライズ対応の自動化ソリューションを実装すると、チームの統合、プロセスの標準化、IT 提供の方法の変革を実現できます。

組織における自動化を評価

組織全体で自動化を最大限に活用しようとする、初めのうちは答えよりも疑問のほうが多いことが少なくありません。エンタープライズ全体で自動化を導入するためにはどのようなステップが必要でしょうか。自動化の成熟度はどのようにして確認できるのでしょうか。どこから着手するのが最適なのでしょうか。

以下の成熟度のレベルを検討して、組織が自動化導入プロセスのどの段階にあるかを見極めにお役立てください。

自動化に関心を持っている

- チームは自動化を目指しているが、どこから手を付けるべきか確信がない
- チームには、導入プロセスのこの段階にとって欠かせない自動化に対する関心と熱意がある

サポートが必要な要素

自動化のための共通プラットフォームの構築や、社内における信頼の構築や議論の醸成、さらに学習、導入、組織規模のスケーリングが容易な標準プラクティスの確立は、困難な作業となる場合があります。

最新の自動化の使用に関して情報を収集している

- 開発、セキュリティ、運用 (DevSecOps) チームが情報を収集し、組織内で自動化の推進役となっている
- これらのチームは組織全体での自動化について豊富な知識を有し、また熱意を持っているので、自動化導入プロセスを始めるための起点となることことができる

サポートが必要な要素

DevSecOps チームに対して、ビジネスや幹部のサポートや組織の協力が不足している、または効果的な変化を起こすための影響力が DevOps チームに不足している場合があります。

部分的に個別の自動化を行っている

- 特定の IT チームまたはビジネスグループが自動化を推進している
- 自動化重視のチームが局所的な成功を達成し、プロセスの加速とリスクの低減を実現しているが、特定のタスクや目的に限定されている

サポートが必要な要素

自動化から多大なメリットを得られるチャンスがあるにもかかわらず、さまざまな障害があるためにチームの成功がチーム内に留まり、組織の他の部分へ広がっていかない場合があります。

自動化の統合に取り組んでいる

- 組織内のほぼすべてのチームが自動化手法を採用済みである
- 自動化を支える理念が浸透し、効率とイノベーションの改善を実現している

サポートが必要な要素

グループごとに特化または独立したプロセスとツールが存在し、固有のスキルの範囲外では機能しないため、組織間での互換性が失われ、DevSecOps における統合の取り組みが複雑になります。

自動化の導入プロセスを始める

IT リーダーとビジネスリーダーは組織全体で自動化することで効率を向上させ、セキュリティ重視を強化し、イノベーションを加速できることを知っていますが、その多くがどこから始めるべきか確信がありません。


自動化を着手する、あるいはユースケースを組織全体へと拡大する場合、まず必要となるのはマインドセットの変革です。組織全体での自動化は、目指すべきゴールというより、終わりのないプロセスと捉えるほうがよいでしょう。まず、組織のニーズを確認することから始めましょう。その際には、今使っているツールだけではなくさまざまな面から検討します。


検討事項


- Infrastructure as code (IaC)、Configuration as code、ネットワーク自動化、セキュリティ自動化（コンプライアンス施行など）などといった自動化からメリットを得られる領域はどれでしょうか。
- 信頼できる唯一の情報源を持つことができるとしたら、チームはどのようなメリットを得られるでしょうか。
- チームが自動化の取り組みを拡張していく際に、自動化コード、ツール、プロセスの成功の基準とするための既存のリポジトリ、またはシステムインベントリーおよび構成がありますか。
- 自動化されたサービスカタログ、チケットシステム、アセットライフサイクルなど、IT サービス管理によるセルフサービス機能があつたら、既存の自動化ユースケースをどの程度加速できるでしょうか。
- 現在リクエストの対応に忙殺されているサービスチームの時間と作業をどの程度削減できるでしょうか。
- 自動化システムを互いに結びつける一元化されたオーケストレーション・プラットフォームを使用した場合、将来のプロジェクトも含めてどのプロジェクトを加速できるでしょうか。

このような検討事項はすぐには実行に移せませんが、Red Hat® Ansible® Automation Platform などの適切なエンタープライズ・ソリューションがあれば、自動化を組織全体で最大限に活用するために必要な時間を短縮できます。

統合された自動化プラットフォームは、以下の機能でチームを支援します。

 複数のばらばらなソリューションを統合する

 自動化に対する組織の対応状況を定義または改善するためのアプローチを作成する

 現在の環境での自動化のギャップを特定する手法を確立する

自動化戦略を成功させるために組織全体で注力する必要がある要素

- **導入**: 自動化のビジョンから実施に至るまで組織全体で取り入れる。その際、シンプルさと知識の共有を重視する
- **アカウントビリティ**: 組織のメンバー全員が、各自の目標に対して責任を持つ
- **ガバナンス**: 規定のプロセスで自動化の目標を達成し、繰り返し実現可能な結果を出す
- **セキュリティ**: 単純化されたパイプラインで、自動化のハッキングやオーバーライドのリスクを低減する。繰り返し可能で再利用できるデータおよびコンプライアンスのプラクティスと、脆弱性の解決に対するプロアクティブなアプローチを含める必要があります
- **標準**: 土台となるだけでなく、組織とチームの目標を達成するために必要な拡張性も備えた標準
- **コードの品質とコーディング手法**: コラボレーションを促進し、長期的に技術的負債を削減する
- **開発者エクスペリエンス**: ソースコントロール、pre-commit フック、継続的インテグレーション/継続的デリバリー (CI/CD) パイプラインを使用して迅速なオンボーディングを重視し、開発者が優れたプラクティスとコード品質を Ansible コーディングとテストで使用するよう全般的にサポートする
- **オープンプラクティス**: 自動化コードの効率的な再利用と学習を育成する

組織全体での自動化のメリットと可能性は、投資対効果 (ROI) の改善、チームの効率アップ、顧客へのより迅速なソリューション提供など、多岐にわたります。しかし、自動化プロセスを開始したり停滞したプロセスを前進させたりするのは、複雑な作業です。

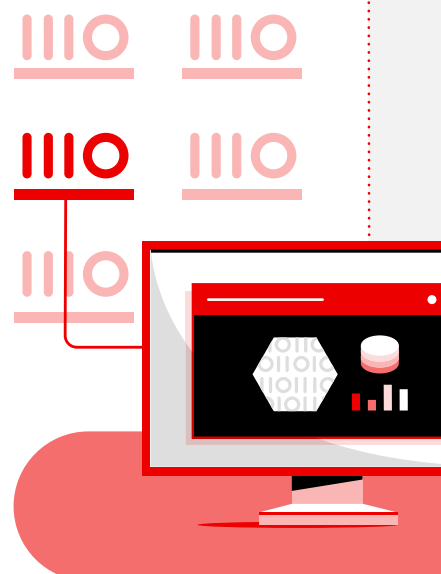
ですが、単独で取り組む必要はありません。**Red Hat サービス**が実践的な体験と専門知識をチームに提供し、プロセスの進行をお手伝いします。

Red Hat コンサルティング: お客様のチームと連携して、組織の自動化の成熟度を評価し、お客様の自動化戦略と目標に沿ったメンターシップを通じて技術ロードマップを共同で開発し、実施します。

Red Hat トレーニングと認定: コースと人気の高い業界認定資格を提供し、チームが自動化スキルとコンプライアンスを強化してより効率的に作業できるよう支援します。

Red Hat テクニカルアカウントマネージメント (TAM): Ansible プラットフォームの運用上のガイダンスを提供し、セキュリティの問題や計画への事前対処を支援します。

次にご紹介する 5 つのステップは、エンタープライズ自動化エキスパートからのサポートと併せて活用すると、自動化の導入プロセスの確立と加速の手助けとなります。



ステップ1

すぐに自動化を適用できる対象を捉える

自動化導入プロセスの最初のフェーズとして、時間がかかるものや複雑なものを選んではいけません。ビジネスの内容を把握していれば、自動化を最初に導入したい場所の見当はおそらくついているでしょう。

この初期段階での目標は、ビジネス全体に価値をもたらす、成功できる基盤となるユースケースを確立するための単一プロセスまたは領域を見つけることです。このステップでは、単一の意欲的なチームと作業すると速やかに進行させることができます。また、このチームは以後進捗に応じて補強していきます。

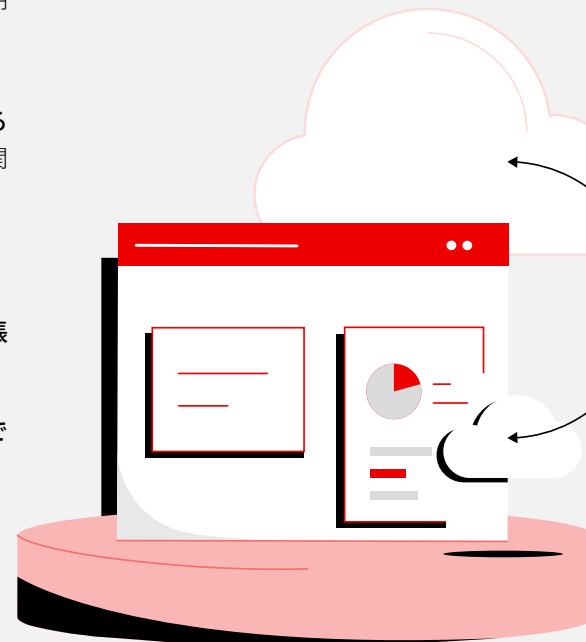
Red Hat コンサルティングは、目的を特定し、プロセス、ツール、スキルギャップに対処して測定可能な成果を得るための全体的な戦略の草案を作成して、お客様がこのステップを開始できるようサポートできます。現状と目指す状態の概略を判断し、実現可能なアプローチとテクノロジー（参加者を含む）を見極め、ユースケースと課題を洗い出す支援をします。

組織のニーズを突き止めてチーム間のコラボレーションを取り入れる準備を整えましょう。ビジネスを重視しコラボレーションを活用するこの問題解決アプローチは、ギャップの解消に役立ち、短期間で測定可能な成果を生み出します。

最初に手がけるユースケースをすばやく見つける

ここで重要なことは、ニーズを完全に理解するために適切な質問を投げかけて、初期ユースケースとして開始する領域を判断することです。

- **すべての関係者を集め、自動化の導入対象となる、時間のかかるプロセスを特定する**
 - › 最初は、知識共有が最適化されるように、単一チーム内部のユースケース、または関与するチームが2つまでのユースケースに的を絞る
 - › プロセスを完了させるために引き入れる人員や作業内容を特定する
 - › 複雑なステップを、管理しやすい単位に細分化する
- **自動化の拡張を支援するためにどのようなシステムが存在し、ソリューションの拡張に何が必要かを見極める**
- **自動化の対象を単一のユースケースに絞って小さく始め、最初の価値を実現するまでは範囲を広げない**
 - › シンプルで繰り返しの多い、次のような Day 2 管理タスクから始める
 - サービスやデバイスの再起動
 - 重要性の低い特定のエージェントのデプロイおよび構成
 - › 次のような、達成可能で効果の大きいアクティビティを探す
 - チェックモードによる構成ドリフトの評価
 - 開発環境およびテスト環境でのインフラストラクチャのプロビジョニング
 - 開発およびテスト・インフラストラクチャ上でのシンプルなアプリケーションスタックの構築



始める前に、包括的な学習カリキュラムを利用して、自動化の課題の対処に必要なスキルをチームに身につけさせましょう。

Red Hat ラーニングサブスクリプションの詳細を見る

自動化プラクティスが成熟するとともに、Red Hat Ansible Lightspeed with IBM watsonx Code Assistant を使用して人工知能 (AI) の能力を活用すると、自動化イニシアチブを加速できます。

Ansible Lightspeed は Ansible Automation Platform ユーザーが利用できる生成 AI サービスであり、自動化チームが Ansible コンテンツをより効率的に作成、導入、メンテナンスできるよう支援します。これにより、自然言語プロンプトを使用して構文的に正しいタスクを作成し、自動化のアイデアを Ansible コードにすることができます。

Red Hat Ansible Lightspeed の詳細

ポイント



今後の自動化を成功させるためには、自動化ユースケースの計画を適切に文書化することが重要です。これを効率的に行うには、自動化リポジトリ向けの一元化された場所を作成すること、内部チャットチャンネルを設定して、計画チームが相互にサポートできるようにすることを検討してください。

自動化の事例を見る

Red Hat コンサルティングは、お客様の自動化プラットフォームへの投資価値を最大化するためのガイダンスを提供できます。



Red Hat はグループアプリケーションの管理を支援してくれました。この管理により、ユーザーが必要とする自律性を提供することができます… 従業員あたり 18 カ月間相当の時間を、IT 部門内のよりやりがいのある戦略的なプロジェクトに集中させることができました。¹

Francisco José Martín 氏

Cepsa 開拓および運用部門 自動化管理者

Cepsa の事例を読む



次のステップ自動化できる対象を発見したら、次のステップへ進みます。改善を実証し、チームの士気を高めるような基盤となるユースケースを構築しましょう。

¹ Red Hat 事例、「Cepsa、Red Hat Ansible Automation Platform で効率を向上」、2022年5月27日。

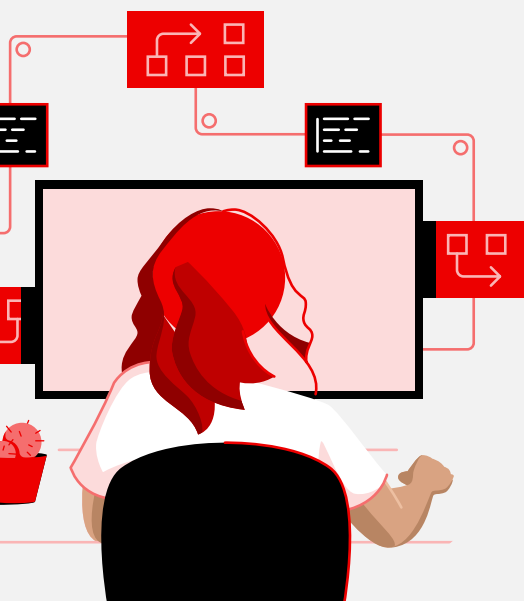
ステップ2

成果を生む基盤を構築する

次のステップでは、アイデアを実行に移します。ディスカバリーで特定した内容に従い、最初の対象となるワークフロー群を自動化し、ITをはじめビジネスにも有意義なインパクトを与えます。

この段階では、初期チームが相互につながれるよう、情報コミュニティを実装するとよいでしょう。これは正式なコミュニティ・オブ・プラクティス (CoP) ではないとしても、その方向へと向かう良いステップです。CoP とは、共通するプラクティスに向けて取り組み、組織全体で学習内容を交換する、同じような考えを持つ人々のグループを指します。

この段階では、Red Hat コンサルティングが、基盤となるユースケースの共同開発を支援できます。具体的には、ステークホルダーの集合、自動化の機会の特定、自動化をサポートする既存システムの特定などが含まれます。この実用最小限の製品 (MVP) の実装は、ありきたりな PoC ではありません。自動化戦略と組織の両方に大きな成功をもたらすものです。



基盤となるユースケースは、次の特徴を備えている必要があります。

- **有意義な結果を出す**：面倒なプロセス、冗長性、不整合、時間がかかる手作業の軽減に役立ちます。
- **企業に成功をもたらす**：スタッフが時間を革新的なプロジェクトに使えるようになります。これにより、システムとプロセスのさらなる自動化に投資する時間の確保も可能となります。
- **広範囲で使用されているプロセスを自動化**：短期間に最小のリスクで自動化できるものを対象とし、測定可能なメリットをもたらします。
- **プロセスとコミュニケーションを繰り返し継続的に提供**：障害の回避を助け、自動化のプロセスを可視化します。



ヒント：自動化実装に向けた初期のステップでは、複雑なプロセスやビジネスクリティカルなプロセスは避けたほうがよいでしょう。大きなメリットが得られる可能性はありますが、ベストプラクティスは、リスクの低いアクティビティで成功を収め、それを足掛かりとして拡大させることです。

ポイント

基盤となる自動化の成功を足掛かりとするにあたり、以下の事項を考慮すると自動化の取り組みの拡張に役立ちます。



本番稼働を目指す。基盤となるユースケースが実務でも機能するようにして、自動化ソリューションが実際に役立つことをチームに示して納得させる



便利で可視性が高いプロセスを自動化して、導入が認められる可能性を高める



計画チームと実装チームの両方に、ステップ1で確立したリポジトリとチャットチャンネルを通じた知識共有の重要性を強調する。これらのチームは自動化コミュニティを開始し、標準化、イネーブルメント、ベストプラクティスに向けた価値の高い力へと発展させることができる



コアチームに DevOps の文化とプロセスをトレーニングして、自動化テクノロジーをより迅速に採用して普及できるようにする



Ansible Automation Platform を活用する

Red Hat のエキスパートは、Ansible Automation Platform の機能を活用して、標準化を通じて効率と説明責任を向上できるよう自動化チームを支援します。

66 DevOps チームには、自動化中心のアプローチへの文化的な変革をサポートするエンタープライズ・テクノロジーが必要であることがわかりました … プロジェクトは複雑で、ミスがあればコストが高くついたのでしょ。新しいアプローチに投資するのであれば、それをサポートするための適切な知識とスキルがチームに与えられるようにする必要がありました。Red Hat コンサルティングは、私たちの学びの過程において素晴らしいパートナーでした。²

Pierre-François Liozon 氏

Crédit Agricole Group Infrastructure Platform (CA-GIP) Unix チーム
責任者

基盤となるユースケースの 説得力のある根拠

保険会社が Red Hat を利用して IT の監視時間とエラーを 80% 削減した方法をご覧ください。

事例を読む



次のステップ 組織規模の自動化に向けたプロセスで大きな賛同を得られたら、その勢いを活用しましょう。ここまでに得た情報を展開して、自動化を業務システムやビジネスサポートシステムに統合します。

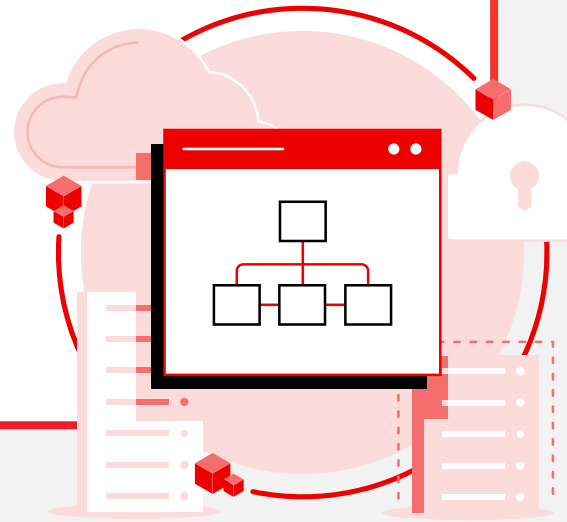
² Red Hat 事例、「CA-GIP、Red Hat Ansible Automation Platform によりスケーリングを実現」、2022年5月10日。

ステップ 3

初回の成功を拡大する

このステップでは、これまで生み出したものに焦点を当て、組織内の他のチームにもその恩恵を広げます。

業務システムまたはビジネスサポートシステムで自動化ワークフローを標準化すると、組織規模の自動化の実現に役立ちます。Red Hat コンサルティングは、お客様が自動化を組織全体に拡大するに際して、既存の自動化の実装を最大限に活用し、繰り返し可能な手法を組織の他の部分で使用できる機会を探し出す支援をします。



既存の自動化フレームワークを他の領域に統合できる場面を探してください。

- IT サービス管理向けのセルフサービスツールを構築する
 - › Red Hat 管理ソリューションを使用して、社内全体で自動化の使用を連携する
 - › **イベント駆動型の自動化**を使用して、ネットワーク中断などのイベントに自動的に対応し、IT チームが担当することが多い手動のステップをなくす
- 新しいアプリケーション自動化機能を既存のフレームワーク上に追加して、範囲を拡大する
 - › 自動化を負荷分散、ファイアウォール・アプリケーション・プロファイル、その他のネットワークシステムにも拡張し、エンドツーエンドのアプリケーションデプロイのより大きな目標を達成する
 - › 既存のプロセスを繰り返しながら、監視、オーケストレーション、コラボレーション、セキュリティ、および自動化を軸としたプラクティスを強化していく
- 実用最小限の製品を積み重ねる
 - › 小規模で実装可能な単位で段階的に進めて、価値をすばやく実現する
 - › 関与するチームから収集したフィードバックに基づいて作成済みの内容から、継続的に改善する
 - › 進捗状況を定期的に評価して、小さなステップの積み重ねで大きな成果を達成できることをチームに示す
 - › 文書化とコラボレーション
 - 他者も成功事例から学べるように、作業内容を文書化してプラクティスを繰り返す。以下の内容を含める
 - + プロセスの変革
 - + 標準化
 - + ワークフローの自動化
- 一元的な情報リポジトリを構築する
 - › データモデル、ストレージアーキテクチャ、構成管理データベース (CMDB)、システム追跡データベースを構築する
 - コード、スクリプト、変更を追跡する
 - 自動化フレームワーク開発の標準化されたプロセスを実施する

この段階では、Red Hat テクニカルアカウントマネージャー (TAM) がお客様のチームに、問題の予測と解決、自動化の成功をサポートするための事前計画など、**運用上のガイダンスとアドバイス**を提供できます。さらに、チームに Ansible Automation Platform のトレーニングを受けさせると、運用、開発、エンジニアリングの主要なチームが新しいプラットフォームを使えるようにし、移行を加速させ、自動化とスケーリングによって効率を高めるのに役立ちます。




Ansible Automation Platform を導入するチームを増やしていくときには、同僚を進んで手助けし、Ansible の機能を確認して最適化し、ドキュメントのリポジトリ、サンプル、チャットチャンネルを通じて組織全体で自由に知識を共有する同僚を見つけましょう。このような人がいると自動化の使用を最適化し、活気ある自律的な文化の醸成を支援できます。

役割に合った適切なトレーニングを受けましょう。

スキルパスの概要で詳細を確認する



ポイント

-  プロセスの間中ずっと、変更管理に関与するチームが活動を続けるようにする
-  自動化への変更は、プロセス、ツール、ワークフローへの変更である
-  自動化は製品提供のプロセス内のものであり、そのような取り扱いが必要

成功の原動力となるプラットフォーム

Red Hat Ansible Automation Platform は、組織全体の自動化を助けます。その詳細をご覧ください。

[詳細はこちら](#)



次のステップ ステップ 3 の終わりまで到達すれば、組織規模の自動化に向けて順調に進んでいます。次は導入を加速し、自動化を進めていくための自信と基盤を確立します。

ステップ 4

自動化導入を加速する

ここまでで詳細かつ一元的な情報リポジトリを構築し、実績ある自動化プロセスとツールで日常業務をシンプルにすることができました。これで、次のステップに進む準備が整いました。

自動化の計画担当者や実装担当者が複数のチームに存在する状態になったので、正式に CoP を確立できます。自動化 CoP とその知識リポジトリは、自動化のメリットを獲得しようとする新しいチームにとっての最初のステップとなります。新しいチームはいずれも、それぞれ独自の基盤となるユースケースから始めます。明確な結果を出したユースケースを提示し、組織のさまざまな部門からチームを関与させると、組織全体での自動化の認識を向上させることができます。

次のような自動化 CoP を作ります。



部門横断的な自動化推進メンバーからなるコアチームで、自動化の専門家 (SME)、IT アーキテクト、ビジネスと IT の SME、および IT 開発者が含まれます。



知識リポジトリに文書化された標準プラクティスと共通言語により、組織のより広い範囲で自動化を作成、共有、活用できるようにします。



自動化に関してサポートを必要としている組織内の他チームと連携し、トレーニングおよび実践的サポートを提供することで、他チームが成功事例から学ぶようにします。その際には、CoP リーダーたちが業務時間の一部を使って所属チーム以外の自動化イニシアチブをサポートすることについて、その人たちの上司から明確な許可を与える必要があります。

自動化の CoP の成功の実例を見る

ProRail は Red Hat コンサルティングのサポートを受けて Red Hat Ansible Automation Platform の使用を拡大し、標準化されたプロセスをネットワークスイッチ修正などで導入しました。新しい自動化 CoP によってチーム間のコラボレーションが単純化され、継続的なイノベーションの基盤が確立されました。



目標は、ネットワーク、ESB、オペレーティングシステムなどの異なるチーム間で Playbook を使用して、サービスを提供することです。エンジニアの間では、すばらしいやり取りが行われています。どのように自動化し、どのようにコラボレーションするかを考えるなかで、従業員のマインドセットが変化しつつあります。³

Coert Busio 氏

ProRail IT4IT および IT4OT マネージャー

ProRail の事例を読む

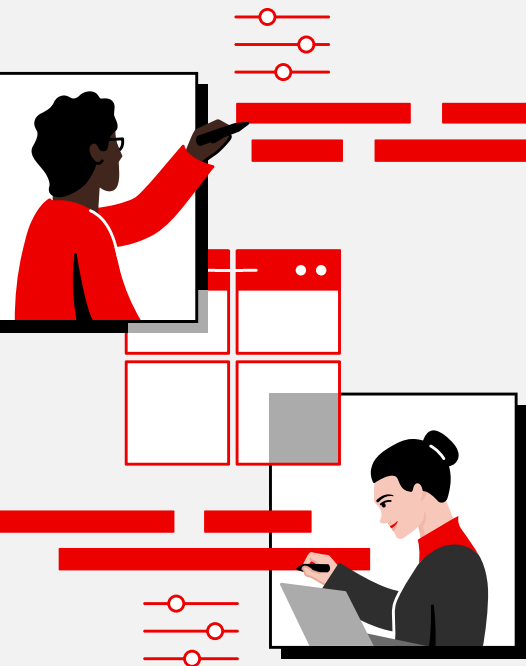
³ Red Hat 事例、「ProRail、自動化によって IT プロセスを数週間から数日に短縮」、2023 年 10 月 6 日。

効果的で永続的な CoP を構築するには、次のことが必要です。

1. 企業の戦略と合致する、コミュニティのミッションと目標を決定する
2. コミュニティを活気づける環境を作成できるように、幹部による後押しを得る
3. 標準化とイノベーションのバランスを取れる意欲的な人物を選んで、コミュニティのリーダー陣を結成する
4. リソースを IT が検出してサポートできるよう、知識管理とツールを統一する
5. 幹部、コミュニティリーダー、新旧のコミュニティメンバーと定期的にコミュニケーションをとる

Red Hat サービスは、お客様が CoP 戦略を確立する支援をします。また、他のチームとのコラボレーションを実現させ、絶えず相互に共有するための構成要素を提供して、このプロセスをサポートします。

さらに、自動化の導入が進んで Ansible Automation Platform の使い方が成熟するのに合わせてチームに Ansible の認定を取得させると、他者を手助けできるよう専門知識を磨くのに役立ちます。お客様を担当する Red Hat TAM は継続的にサポートを提供し、お客様がビジネス目標に集中できるよう、Ansible Automation Platform のセキュリティ、信頼性、管理性の向上を支援します。



ポイント

自動化は文化であり、手法でもあります。



ここまでの成果を組織内で共有し、組織規模の自動化に向けてチームを前進させる



社内全体で自動化を理解できるようにし、誰もが自動化を使えるようにする



イノベーションの実現に集中すると、企業が変革を遂げる

自動化の能力を拡大する

TransUnion が Red Hat Ansible Automation Platform の使用を拡大して、機能の開発を加速し、大規模にクラウドに移行した方法をご覧ください。

プレスリリースを見る



次のステップ 変革の秘訣は最終ステップにあります。組織が自動化の文化と手法を両方とも受け入れたら、次は最適化して成長する段階です。

自動化重視のエンタープライズを最適化して成長させる

この段階では、すでに自動化の取り組みに勢いがつき、組織全体で目覚ましい自動化の成果が達成され、自動化の文化が生まれていることでしょう。しかし他のテクノロジーと同様、変化は避けられません。新しいソリューションや社内ツールが導入されていくうちに、自動化重視のアプローチを導入したくなることでしょう。

業界のトレンドが変化するのに合わせて、最新のテクノロジーとプラクティスを活用できます。自動化を行うことで、チームはワークフローとオーケストレーションを迅速に導入、連結、強化して、変化する要件に対応するために必要な時間と労力を取り戻せます。

たとえばユーザー・インタフェースまたはアプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) を介したその他の自動化ワークフローを通じて手動でアクセスして実装できるセルフサービスの自動化エンドポイントを提供すると、より価値の高いサービスをエンドユーザーに提供できます。

エンドユーザーの利便性のためにセルフサービスポータルに組み込むと、Ansible Automation Platform のジョブとワークフローのテンプレート API により、このアプローチに従うのに必要な統合ポイントがもたらされます。同じ API を開発者が CI/CD パイプラインで使用すれば、業務に必要なインフラストラクチャとアプリケーションをデプロイして構成できます。

Ansible Automation Platform は最終的に一元的な自動化のハブになり、管理者やその他の自動化オーナーが、使用しているエントリーポイントにかかわらず、誰が自動化を使用しているのか制御し、監視できます。同様に、セキュリティチームは一元的な監査ポイントを持ち、セキュリティ情報およびイベント管理 (SIEM) ログ記録システムと統合できます。

自動化への信頼が高まるにつれ、**Event-Driven Ansible** を監視およびその他のイベントツールから起動して、以前定義したものと同一自動化を通じた修復アクションなどをトリガーできます。これは、最後の手動部分を取り除くことが目的で、完全な自己修復型システムを目指しています。Event-Driven Ansible は、最終的にイベントを既存の自動化コンテンツにつなげることで、自動化の成熟度を向上させるのに役立ちます。



Event-Driven Ansible を使い始めるには、追加情報を自動収集して、担当者が確認したチケットを補完し、その後、推奨される自動化アクションを担当者が手動でトリガーできるようにします。イベントと自動化アクションとの間の因果関係を十分に検証できれば、手動の検証をなくして、ジョブテンプレートが直接トリガーされるようにします。

Ansible Automation Platform の習熟度が高まり、プラットフォームを使用して CoP を利用するチームが組織内で増えてくると、草の根のパートタイムの CoP リーダーによるサポートでは、組織内における自動化の成長についていけなくなることがあります。専任のスタッフで新しいチームを支援し、自動化プラットフォームへのガバナンスを提供できるよう、いずれかの時点で、機能完備のセンター・オブ・エクセレンス (CoE) に予算を割り当てましょう。

CoE と CoP の違い

CoE は構造化された一元的なユニットで、経営陣に説明責任があり、卓越した成果の達成と、特定の技術ドメインにおけるベストプラクティスの共有を重視します。それに対して CoP はよりボランティア色が強く、コラボレーション、仲間意識、共通の技術的関心や専門知識を持つ個人間の知識共有の促進を目的とする、分散したグループです。



Red Hat サービスの 利用を始める

エンタープライズ自動化の魅力は、DevSecOps 文化の進化を支援する一貫した反復可能なプロセスで結果を加速できることです。

組織が自動化導入プロセスのどの段階にあっても、大規模に自動化を取り入れるのは複雑な作業です。Red Hat サービスはそのプレッシャーを軽減するためのサポートを提供します。お客様の状況に見合った対応をし、モダナイズされた IT 組織へと進化するための持続的な自動化戦略を確立できるようお客様と連携します。



Red Hat サービスの強み



メンターベースのアプローチ

Red Hat コンサルティングは、Red Hat のエンジニアリング部門およびサポート部門と協力して高度な自動化スキルと技術的知識を直接お客様の組織にお届けし、ロードマップの作成、チームの位置付けと調整、プロセスの効率化、エンタープライズシステムとアプリケーションの連携を支援します。



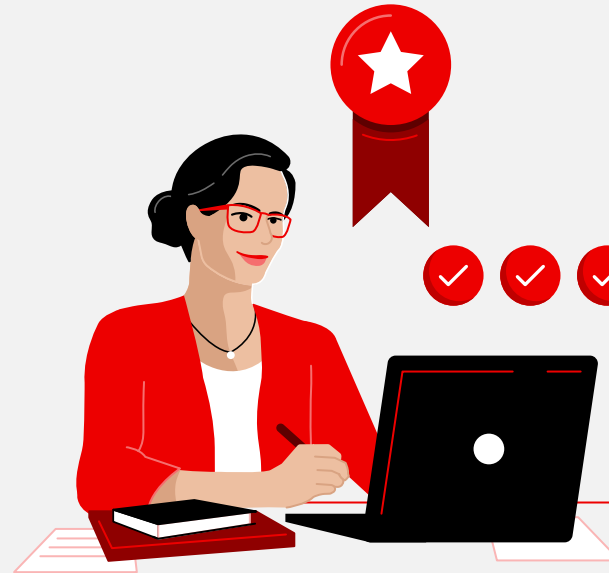
実践的トレーニング

Red Hat トレーニングと認定では、基盤となる先進的なオープンソース・テクノロジーに関するロールベースの実践的な知識を開発しています。包括的な自動化カリキュラムにより、自動化投資で長期的な成功を収めるためのスキルを構築できます。



1対1の特化型サポート

Red Hat テクニカルアカウントマネージメントが、自動化導入プロセスに沿って運用ガイダンスを提供し、潜在的な問題を発生前に解決し、中断を最小に抑え、主要なビジネス課題に集中できるように連携します。



今すぐ始めましょう

まずは、課題と目標について Red Hat のエキスパートにご相談ください。

[ディスカバリー・セッションを予約する](#)

[Red Hat サービスによる自動化導入プロセスの進化の詳細](#)

Copyright © 2024 Red Hat, Inc. Red Hat, Red Hat ロゴ、および Ansible は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。